

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「や」優しい心で「さ」さわやかな笑顔「し」信頼関係を大切に「い」一緒に楽しくと、独自の理念で認知症高齢者との関わりを大切にしており、又、地域密着型サービスとして『やさしい』には、地域の方々との優しい交流の意味合いもあり、運営理念を実現している。</p>	<p>職員間で話し合い、『悠悠香南』独自の理念『愛情』を作りあげており、理念を大切に組み込んでいる。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を常に目につく所に掲げ、ミーティングの度に良く話し合い、全員が共有した考えを持てるように取り組みを行っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>グループホームの広報誌にわかり易く掲載し、理解を深めて頂く様にしている。また、行事の際のスケジュール内に説明の時間を設けて理念の浸透に取り組んでいる。</p>	<p>地域の婦人会や老人会に働きかけ、グループホームの説明や広報誌を配布する等、取り組んで行きたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の方との挨拶を通して、地域の方との交流を深めている。散歩時には、会話を交わし、野菜やお花をおすそ分けして頂いたり、ホームの行事にご招待したりして親交を深めている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>運営推進会議を通して、自治会、婦人会の方との話し合いの場を持っており、その中で地域の活動で参加できるものはないかを相談し、交流を深めるように努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	一人暮らしの方に声をかけ話をしたり、行事に招待している。地域の方からの認知症についての相談があれば力をお貸ししている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価表を基に評価を行い、改善すべき点は、ミーティングの中で話し合い外部評価に臨んでいる。外部評価の結果についても改善点や良い点についても、更なる向上を目指して話し合い、実行している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	回数をかさねる毎に、深い話し合いが出来ており、実際に取り組んだ事柄の反省を次に活かせるような内容になっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の中でどのように関わりを持っていくのかを具体的に相談している。パンフレットを置かせて頂く等、接点を増やしていけるように取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会で権利擁護事業や成年後見制度に関する制度を学んでいる。現在必要性のある方はいないが、今後必要に応じて支援していく。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを基にミーティングで話し合いの場を持っている。また、勉強会にて講師より指導を受け、虐待について深く学んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事前に見学に来ていただき、疑問質問等をお聞きしている。また、解約についても同じようにしている。後日、生じた質問点に直ちに回答できるように配慮している。また、グループホームに対する内容をわかり易く文章で書いた『グループホームQ&amp;A』を独自に作成し、お渡ししている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満や苦情、要望が無いが、良くお聞きするようにしている。利用者が発した小さな事を見逃さず記録し、内容・原因の分析・今後の対応、改善点を職員全員で話し合い改善している。また、「ご意見箱」を設置している。</p>	<p>(昨年から実施開始)</p> <p>年に1回、家族アンケート(匿名)を実施するようにし、満足度及び苦情・要望を拾い上げられるように努力している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者に何か変化があれば、直にご家族に電話連絡を入れるようにしている。毎月、月末にお手紙にて健康状態や生活状況、金銭管理の報告を行っている。職員の異動の際は、口頭または文章にてお知らせしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>話し合いの場の中でお気付きの点がないかお聞きするようにしている。年1回家族アンケートを実施して意見の把握に努めている。契約時の重要事項説明書や掲示物に第三者機関への苦情要望窓口機関の案内も明記し、口頭により説明を行っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月ミーティングを開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。1か月に1回の幹部の定例会議で管理者が運営者にその意見や提案を述べている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様、ご家族様の状態に合わせ柔軟に対応できる体制が取られている。ご家族が通院介助できなかつたり、法事や結婚式の交通に都合がつかない場合は、介助に必要な時間、職員を配置するなど調整をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を崩さないように職員の異動を最小限に抑えることを中心に考えている。異動や離職がある場合は、新規職員を早めに配置し引継ぎを円滑に行い、入居者様に不安が生じないように配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間事業計画の中に職員研修の希望する研修を取り入れている。(毎月第3水曜日、定期的実施している)その他、外部で行なわれる研修案内情報等を職員に知らせ、研修を受ける機会を設けている。研修後には報告書の提出を行い、それを内部研修にて発表し、共有できるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同グループの事業所が他に3ユニットあり、常に交流する機会を持っており、情報交換を行いサービスの質の向上を目指している。2カ月毎に香南町の連絡協議会に参加しており、特養・老健・病院・療養型・通所・支援センター等の職員と情報交換や事例検討会を行い、交流の場を持っている。</p>	<p>他のグループホームの勉強会にも招待して頂き、参加し交流を持っている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>顧問の社会保険労務士が管理者や職員の相談に応じられる体制がある。また、月に一度定例会議にて運営者と話し合える場がある。また、年に2回、運営者・施設長との個人面談があり、話せる場がある。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>「自己評価表」の提出や管理者からみた職員の「人事考課表」があり、そこから、個々の勤務状態を把握している。また、面接時に悩みを解消し、向上心を持って働けるように努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学に来て頂きホームの雰囲気を知って頂き、不安などが無いように相談に乗っている。本人の希望にそえる様子に十分にお話をお聴きしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>その都度、ご家族との話し合いの場を持ち、疑問、質問をしっかりとお聴きしている。不安に思われていることや困っている内容を専門的立場からと経験から受け止め、必要なサービスを一緒に考えている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談時からしっかりと状態把握に努めて、面接等を行い、ご本人とご家族が必要とされる事を見極めている。他サービスを利用されていた方は、事業所を訪問し利用時の状態もお聞きしている。居宅サービスの登録のある方は、介護支援専門員から情報を頂いている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一人ひとりの状態に応じて自宅への外出・外泊を行なって頂き、いつでも自宅へ帰れる事を経験して頂くこともある。また、ご家族の協力を得ながら面会の回数を調整し、徐々に場に馴染める工夫もしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人としての尊厳を大切にし、これまでの生き方について互いに知り、様々な事を教わったり、手伝って頂いたり、人として学び、支えあえる関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とは面会時やホームの行事(家族懇親会)、担当者会議など様々な場面において、話し合いの場を持っている。日常生活面や身体面等の話し合いの中、喜怒哀楽を共にしてきており、家族と共に歩んできている実感がある。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族の関係は様々であり、個々に応じて対応し、少しでもより良い関係が保たれるように支援している。面会時は、ゆったりと気兼ねをせずお互いが話せる場を配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会や、馴染みある場所をお聞きし、訪問できる支援を行っている。年賀状や手紙のやり取りの支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの利用者同士の関係がある為、食事の座席位置や、ゆったりと過ごすときなど、上手く支え合えるような環境を職員がさりげなく間に入り支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了という事があっても利用者や、家族との連絡を断ち切らず、相談に乗り支援できている。退所後、同グループの事業所が引き続き関り、支援させて頂いている事例もある。又、医療に切り替わっても病院に面会に行かせて頂いたり、ご家族と電話のやりとりもさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって、何を願い、どんなことをしてもらいたいのか、本人である利用者様の視点に立ち、よりよく暮らしていけるケアに取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自の「発症経過シート」「家族状況とGHに期待する事」「バックグラウンド」「生活様子」のシートを利用し、個々の生活歴や状態後の把握に努めている。契約者様以外のご家族様からも、面会時にこれまでの暮らしをお聞きしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の毎日の生活を記録し、把握している。変化があれば、その都度 話し合い、現状の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、職員、関係者全員がなるべく参加できるようにし、情報を共有している。本人の状況を十分にアセスメントした上で、意見を出し合い、家族の要望をお聴きしながら、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度見直しを行い、状態変化があった場合には、すぐに再度見直しを行うようにしている。見直しにはご家族や医療機関の関係者、職員が良く話し合い、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録に一日の言動、行動、身体状況などを詳しく日誌に記入し、「行動計画実施記録」は、計画に連動した内容になっており、毎日のケアの実践・結果を記録し、毎月評価を行なうことにより介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方のご家族が面会に来られた際は、お部屋をご用意したり利用者様の居室に簡易ベッドをお入れし、宿泊されることもある。ホームと家族が気兼ねなく家族的なおつきあいができるよう柔軟な支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の際には、地域のボランティアの方が訪問して下さり、入居者様との交流や顔なじみの関係を築いている。消防訓練には入居者様も一緒に参加し訓練を受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の介護支援専門員の連絡協議会に参加し、他のケアマネジャーや他事業所の担当者と共に連携を持っている。当ホームの利用者様で地域の病院の認知症デイケアを利用されている方もいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの担当者とは、2カ月に1回の「運営推進会議」で情報交換している。不明な点や質問があれば指導して頂いている。		地域包括支援センターと連携を図りながら支援する事例もあり、認知症の方を地域で支える地域資源ネットワークの拡充に協働して関わっている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族に希望する医療機関を入居時にお聞きしている。ホームドクターが週に一回往診に来ている。また、事業所近くの病院と協定書を結んでおり、ご家族や本人の希望により医師の訪問がある。協定書を結んでいる総合病院は3カ所ある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	独自の「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成しており、個人情報について適切な取り扱いをしている。また、一人ひとりの尊厳を大切にしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自立の可能性を最大限に引き出せるように支援し、残された能力を活用でき、自信が持てる暮らしができるようにサポートしている。会話を多く持ち、自分で選択したり、決定できるようにサポートしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中で、自分で選択できるように声かけを行い、一人ひとりのペースで暮らしていける支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に美容師が訪問し、カットや毛染め、パーマを希望に応じて行っている。以前からの行きつけがある方は、ご家族に協力を得ながら連れて行ってもらっている。整容の乱れや同じ服装ばかりの方には、さりげなく一緒に直し、カバーしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり、季節毎に節句や誕生会などを行っている。本人のできること・できないことをアセスメント(食事・調理)の中で見極め、一人ひとりの力量に合わせて食事の盛り付け、調理、配膳、片付けを職員と一緒にしている。	前回、指摘があったが食事の際の食材の温度(適温)を個別に配慮をしている。会話を楽しみながら食事ができるように配慮している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は、日常的に楽しめるようそれぞれに合わせて支援している。特に、おやつを居室内に持っておられる方は、賞味期限や衛生面や他の入居者様への関わりに注意しながら支援している。たばこの習慣がある方は、職員が管理をして楽しみが継続できるように支援している。	タバコを吸われる方が1名おられ、事務所内で保管管理し、一日2回喫煙の機会を設けている(屋外)。体調等や屋外の天候を配慮しつつ、本人の長年の嗜好(楽しみ)を奪わない配慮をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握し、定期的な誘導を行っている。本人が拒否される時には、無理強いせず、羞恥心に配慮しながら出来るよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望にあわせ、ゆっくり入れるようにしている。また、それぞれのADLや病状に合わせて支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を増やし、夜間安眠できるようにしている。不眠を訴えられる場合は、ゆっくりとお話をお聴きしたり、そばに寄り添い安心して眠れるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴や趣味を把握し、日常生活の中において役割や楽しみを持ち生活できる工夫をしている。自信が持て、うれしい気持ちになれるように声かけにも配慮している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は、職員がそばにさりげなく立ち、本人がお金を持ち、支払う機会を作っている。一人ひとりがどこまで出来るか把握しており、力量に応じて支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時には、近隣の散歩へ出かけるように支援している。また、同グループのせんねん村に行き庭(650坪)を散歩し交流も持っている。玄関先で体操やひなたぼっこをしたり、花の水やりや掃き掃除をして、戸外へでる機会を沢山作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	皆様高齢になってきており、認知症の進行とともに行動障害も増え重度化しているが、ご家族にも協力して頂き、できる限りの外出支援をおこなっている。地域のボランティアを交えての買い物やご家族にも案内状をお出しし一緒に参加される機会がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりができるように支援している。毎年、年賀状を利用者様全員がご家族にお出ししている。普段から友人・家族に手紙を書かれる方は、便箋や封筒を用意し、いつでも書けるようにサポートしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者と利用者様が気兼ねをせず、過ごせるように配慮している。おやつ時は、一緒に召し上がって頂いたり、散歩に一緒に出かけたり、過ごし易い雰囲気作りをしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に「身体拘束廃止委員会」を開催し、職員全員で話し合っている。全体の勉強会でも身体拘束について取り上げて、内容を把握できており、ケアにも反映されている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の目配り・気配りを強化し、一人ひとりの日常生活リズムを把握し、鍵をかけない工夫をしている。鍵をする事により、より不穏症状が増す事を職員全員が把握できている。不穏症状がある方はそばに寄り添い安心できるように対応している。	○	建物を出てすぐ、交通量の多い道路があり、川も流れているため、入居者様の状態(不穏な方が居る場合)によって、鍵をかけている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室内に訪室する時はノックをし、お邪魔させて頂いている。利用者様にとって不快にならないように配慮しながら常に所在は確認している。利用者様同士の会話もさりげなく聴き、見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は使用していない時は、目につかない場所に保管している。はさみには番号が付けてあり、使用していない時は、数量を確認できるようにしている。しかし、調理の際には、食品を切ったりむいたり等力量にあわせてお手伝いして頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止について独自の「事故防止マニュアル」を作成し、それを中心にミーティングや勉強会で知識を身につけ、日頃から防止できるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年間研修計画の中に入れて、定期的に学習・実習している。事業所内で行なう勉強会の他に自治体で行なう講習会にも参加している。新人職員、参加できなかった職員は、管理者が個々に指導している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練・消火訓練を行っている。訓練には近所の方も参加して頂き、協力を得ている。また、夜間の火災を想定した訓練も勉強会で行なっており、利用者様が安全に避難できる方法を習得している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクはご家族に事前にお話している。リスクを認識し、危険回避策は講じるが自由な生活区間も大切に、何がどう危険なのかと安全を重視するためにやむを得ず行う制限について家族と話し合い合意をもっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、血圧や体温の変化、顔色や睡眠状態、行動などに注意を払い、細かなことでも常に職員間で報告し合い、異常時には医師に速やかに報告し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬一覧表を作成し、薬品名・投薬量・時間を確認できる。処方箋にて薬の効果、効能・注意事項(副作用)を把握できている。症状に変化があれば、医師に相談し指示を仰いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食べ物に乳製品など便秘予防になる食品を取り入れている。また、運動を行い自然に排便できるように心掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは必ず行い、不十分な方は職員が一部介助している。口腔状態を把握し、必要と判断すればご家族に相談し、訪問歯科にて治療や入れ歯の修理・調整・作成を依頼している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立作成をしている。食事摂取量は毎食後記録しており、摂取量を確認し個々に対応している。水分を摂りたがらない方は、十分な水分量が確保できるようにゼリーを作って召し上がって頂く等、工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	独自の『感染症マニュアル』を作成している。定期的な勉強会で感染症の知識を習得し、職員全員が正しい知識を持ち、共通の認識で感染防止に努めている。インフルエンザの予防接種は、入居者様・職員全員、接種している。職員が出勤してきた際、外出から帰宅時、外部の面会者は手指消毒、手洗い、うがいを励行している。ノロウイルス対策で次亜塩素酸ナトリウムの殺菌消毒剤で拭き掃除、漂白、消毒をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、布巾等、毎日洗浄消毒を行っている。『清潔』『迅速』『加熱、冷却』をポイントに職員、入居者様の手洗いの励行を重要視している。食材は、翌日一日分が前日に市場から届き、常に新鮮なものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関へは、プランターを利用してお花を植えている。玄関周りの掃き掃除や花の水やり等、常に戸外に出ることで近隣の方が声をかけ易い雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や、リビングは季節に合う花や、小物をディスプレイしている。夏場の日差しが強い時期は簾や風鈴で季節感を出し、日差しを軟らかくしている。食事の際のテレビは音量に注意したり、消音する等場面や個々に応じて配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を工夫している。利用者様が一人で過ごされたり、気の合った方と一緒に過ごす場所がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の準備物説明の際に使い慣れた家具や生活用品を持って来て頂き、環境が急変しないよう配慮している。本人に合わせて机や椅子、ソファを用意している方もいる。また、お仏壇を持ってこられている方も数人いらっしゃる。畳を敷かれている居室もある。畳にコタツと、今までの生活暦を崩さない工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、夕と必ず換気を行うようにしている。また、室内には温度計を設置し、温度管理に努めている。エアコンの習慣がない方は、窓の開閉をこまめにし衣服調整や室温調節に配慮している。		冬場は、特に換気をこまめにし湿度を50%以上に保つ工夫をしている。加湿器、濡れシート・タオルをリビングや居室に吊るし湿度をあげている。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方々の身体機能に合わせて各箇所に手すりやスロープを設置している。入居後、個々に応じての手すりの設置をしている。羞恥心を伴う入浴は、見守りの下できるだけ自分で安全に入浴できるように浴室に手すりや浴槽台、浴槽手すり、滑り止め等で安全を確保している。一緒に洗濯を干したり、取り込んだりする為に、屋外にスロープを設けた。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室ドアには、各自手作りの表札が取り付けられている。個々の力量に応じて判りやすい目印的な飾りつけも施している。「便所」「お風呂」と利用者様の目線の高さに表札がある。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の周辺には、常に花を植えて花々を眺めたり、手入れや水やりをしたり、利用書様にとって和やかな気持ちになれるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様、一人ひとりの出来る事を活かし、役割を持ち、生き生きとした生活を行っていただけるよう心がけ、支援しています。また、ご家族の方との連絡を密にし、深くかかわりを持つことを重要視しています。

平成12年開所当初からいらっしゃる方が殆どなので、認知症が進行し、できなくなったりする中で入居者様が混乱しないで普通の日常生活を送ることができるようにする事を何よりも優先します。そして、ご家族や地域の方々、ボランティアの協力を得ながら戸外へ出て、五感を刺激し季節を感じたり、また、招待することで交流を図り、家庭の暮らしに近い環境で生活できることを常に考えています。医療面に関しては、病状の早期発見と緊急時の迅速な対応はスムーズに行われるよう研修にて知識を習得することと主治医との連携に努めています。